

そろばんは頭をよくする魔法の道具。

Let's soroban

新型コロナウイルスの影響をモロに受けて春先以降の検定試験スケジュールが大幅に変更となりましたが、ここに来て少しずつ正常化しつつあります。

このあとの今年度 検定試験は…全珠連検定は9月27日(399回)、11月29日(400回)、1月31日(401回)、3月21日(402回)と実施する予定。11月は第400回に当たるため受験者全員に記念品としてシャープペンシルが贈られます。全珠連検定は昭和29年にスタートし、現在までに累計受験者数が9120万人を超えているそうです。スゴっ！パソコン検定のほうも、今年度は10月・12月・2月と実施する予定です。

出来る限りのウィルス対策を講じたうえで実施していきます。みなさん、逆境を乗り越えていきましょうね～！



「6+7=13」って頭の中でどう計算してる？（‘ねとらぼ’より抜粋）

「6+7=13」を計算するとき、頭の中ではどう考えていますか？

ある Twitter ユーザーが投稿したアンケートが楽しいことになっています。1位は“暗記”でしたが、みなさんの脳内はどうなっていますか？



アンケートの選択肢は、“10をつくる派”「 $(3+3)+7=10+3=13$ 」、 “かけ算を使う派”「 $7 \times 2 - 1 = 13$ 」と「 $6 \times 2 + 1 = 13$ 」、そして“暗記”です。

結果、1位は“暗記”で47.1%、2位が「 $(3+3)+7=10+3=13$ 」で39.9%でした。3位以下は大きく引き離され、「 $6 \times 2 + 1 = 13$ 」が9.8%、「 $7 \times 2 - 1 = 13$ 」は3.1%でした。

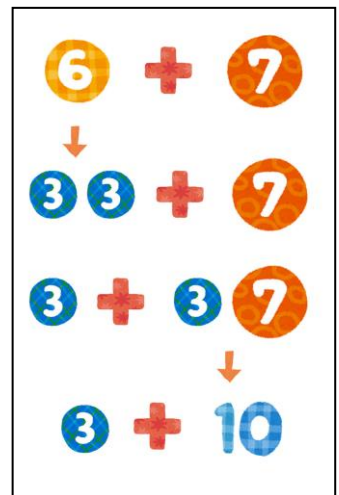
アンケートに対する返信を見ていくと、同じ“10をつくる派”であっても、脳内でのイメージは千差万別であることがわかります。おはじき、升、テトリスのようなブロックなど、さまざまな物体を思い浮かべているようです。また、6ではなく、7を分解し「 $6+(4+3)$ 」で計算するという声も目立ちました。

その他の計算方法として比較的多かったのが、“5+5を使う派”。

「 $6+2-5+10$ 」や「 $(5+1)+(5+2)$ 」などです。この派閥には“そろばん”をイメージする人が多いようです。とくに前者の数式は、そろばんでの動きそのものです。

ちなみに筆者はこの派閥ですが、脳内は5円玉と1円玉です。算数は全くできないのに語尾に「円」をつけると爆速で計算できる親戚がいたためそうになりました。本当に人それぞれですね。

少数派となってしまいましたが、「 $6 \times 2 + 1 = 13$ 」を使う人からは「なんでそんなにややこしい計算の仕方をする人が多いんだろうか」との感想が寄せられていました。確かに、シンプルで速く計算できそうです。



日ごろから当たり前のように、そろばん式計算をしている自分にとっては、この記事は目からウロコという感じで、えっ、そうだったの？という印象。確かに、それぞれの方式があって面白いのですが、もっともビックリしたのは「暗記」が最多というアンケート結果です。ある方は「6と7の数字が見えた瞬間に「和13、差1、積42」が思い浮かぶ」とコメントされていましたが、ということは九九と同様に一桁のすべての組み合わせパターンを覚えてしまうということなのでしょうか？

自分の中にある当たり前を少し疑ってみると、まったく異なる視点が開けてくる感じがしてとても興味深い記事でした(^_^)